

松田町立寄小学校

研究テーマ：「つながり」を深める子をめざして～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり～

1、実践の目的

本校では、これまで「対話による『つながり』」について焦点を当て研究を進めてきた。特に「教師や児童とのつながり」「教材とのつながり」を中心に、本校の特色である少人数ならではのスタイルを確立していくための授業のあり方を模索してきた。教師は一人ひとりの児童の実態把握に努め、単元を見通し、児童が意図的につながる場を設ける工夫を行った。その結果、児童が互いの意見の相違に気付き、対話を通じた学びが活発になり、教材の理解につながった。一方で、言葉による見方・考え方を十分に働かせられないこともあった。語彙や音読の不足から、言葉に着目できなかったり、話し合いの視点が曖昧になったりして、十分に深まりある学びにならなかったことが課題である。

そこで、今年度はさらに対話を充実させ、自らつながりを深める子をめざそうと考えた。その学びの有り様として、言葉に着目し、教材文を根拠に、互いに共有し合える場を工夫していく言葉による見方・考え方を働かせる授業を作り上げていくこととした。

2、実践の内容

(1) 具体的方策

- ①研究テーマの達成をめざした授業づくり
- ②事前検討会と授業構想検討会の実施
- ③研究協議の持ち方の見直しと改善

- ④学年を見通した教材研究の実施
- ⑤「授業力向上シート」や「話し方・聞き方の学年別規準表」の活用
- ⑥読書環境の整備
- ⑦家庭学習の充実
- ⑧説明学習の推進

(2) 研究授業、研究協議の様子

全学級で研究授業を行った。授業前には、それぞれの授業について指導案の事前検討会と授業構想検討会を計画した。教員全員で検討を進めることで、研究内容の理解がより進んだ。また、全学年の国語の説明文について系統性が捉えられた。

研究授業では、各学年とも授業構成を工夫し、わが校の特色でもある少人数での対話による授業を行った。児童は、教材文を正確に読み取ったり、自分なりの感想を表現したりと一つひとつの言葉を大切にしていた。



研究授業後の研究協議では、①主体的に「つながる」②対話的に「つながる」③深く「つながる」の3つの視点で、教員全員が付箋を貼りながら協議した。事前検討、授業構想検討会と、参加者全員が十分に教材研究を行っているので、研究テーマについて迫る協議となった。



さらに研究協議後には、元帝京大学小学校相談役 矢野英明氏に講義いただいた。研究授業を行うにあたっての疑問点やさらに知りたいことについて、毎回テーマを設けて指導いただいた。

3、実践の成果

(1) 3つの「つながり」を深める子

研究主題の「つながり」について、2年間取り組んだことで、児童につけたい力が明確になった。

①主体的に「つながる」

学ぶ意欲をもち、学ぶ目的を明確にし、教材と自らつながる子をめざした。授業づくりにおいては、導入や教材との出会いの工夫が考えられた。

②対話的に「つながる」

友だちとつながろうとする子をめざした。そのために、学級の雰囲気を整え、単元計画を明確にし、目的の共有化を図ることを意識した。個の意見を明確にする時間の確保や展開の工夫、教師の出番などを見

極めることを意識した。

③深い学びに「つながる」

多様な考え方に気付いたり、学びを生かしたりする子をめざした。児童一人ひとりが学んだことが、さらに深まる単元構成を工夫した。また、既習した学びがさらに広がり、終末の言語活動の充実や他教科や生活場面での活用を考えることができた。

(2) 言葉の見方・考え方を働かせる授業

国語科の深い学びの鍵として、言葉の見方・考え方を働かせる授業づくりを意識してきた。言葉や文章に目を向けて、言葉の意味を問い直し、自覚できるようにするために、接続詞に着目したり、言葉の意味を確かめたり、言葉の働きに着目して読解したりした。また、単元終末の言語活動では、「読み」で学んだことを生かす「書き」の活動を設定し、単元構成を工夫することができた。このように、言葉の見方・考え方を重視することで、児童は、言葉によって自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりする言葉がもつよさを感じられるようになってきた。

4、今後の展開

3つの「つながり」の理解が進み、授業づくりに生かせるようになってきた。今後は、「深い学び」についてさらに研究を進めたい。

特に、国語の言語活動では、他教科との教科横断的な学習を考えることで、さらに深い学びへと充実すると考えられる。今後は、カリキュラムマネジメントをさらに意識して取り組んでいきたい。